



緑園西

泉区緑園3丁目39番地

TEL (811) 6030

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuennishi/>

カンボジアの学校で

学校長 立田 順一

今から10年ほど前に、私はカンボジアの学校を訪問したことがあります。

カンボジアでは、20世紀後半の長い内戦によって学校を含めた公共施設の大半が破壊されるとともに、多くの教員が虐殺されました。そのため、公教育における物的や人的な資源の不足が、今でも深刻な問題となっています。近年、諸外国の援助などによって小中学校の校舎の建設は進んでいますが、教員の養成がそれに追いついていないため、きめ細かい教育の実現には至っていません。特に、地方の山岳地帯ではそうした傾向が顕著です。

私を含めた一行が訪れたモンドルキリ州はカンボジアの東部にあり、首都・プノンペンからは車で8時間ほどかかります。モンドルキリとはカンボジア語で「山の中」を意味しますが、その名の通り、カンボジア国内でも最も人口が少ない山岳地帯で、その人口密度はわずか3人/km²です。

約1週間の滞在期間中、私たちは5つの小中学校を訪問しましたが、カンボジアの教育環境の劣悪さは、予想をはるかに超えるものでした。校舎などの施設はなんとか整備されていますが、理科の実験道具をはじめ、教材教具はほとんどありません。子どもたちもノートや筆記用具などの学用品を持っておらず、教員が黒板に書く内容をひたすら暗記する、というスタイルで授業が進められていました。

また、音楽、図工・美術などの実技を伴う教科については、具体的なカリキュラムがありませんでした。ある中学校では、校庭の真ん中に花壇が造られていたので、これでは体育の授業に支障があるだろうと思い、その学校の校長先生に「なぜ、ここに花壇を造ったのですか？」と尋ねると、「この場所がいちばん日当たりがいいからだよ」という答えが返ってきました。

それでも、放課後の校庭では手作りの支柱やネットを使って、子どもたちがバレーボールの試合を楽しむ姿も見られました。そして、それぞれの学校で働く若い教員たちは、厳しい環境の中でも高い意欲を保っていました。ある者は蚊が媒介する感染症のマラリアと闘いながら。また、ある者は下宿の部屋の中で鶏を飼育し、それを市場で売って生活費の足しにしながら……。

「この仕事にやりがいを感じている」「教育を通じて、この国を変えていきたい」

そう語る彼らの言葉に、国は違っても同じ仕事に携わる者として大きな勇気をもらいました。

あの頃のカンボジアと、コロナ禍の中にある今の日本とを簡単に比較することはできません。けれども、当時のことを思い出すと、困難な状況の中でも前に進もうという気持ちが湧いてきます。

